

患者参画の国際的潮流 ～国際機関CIOMSによる活動報告～

日本でも医薬品開発や医療研究に患者・市民の参画が求められるようになりつつありますが、既に海外では創薬から製造販売後に至るまで、また様々な医療環境における患者参画の取組みが展開しており、目標から実践へと移行しつつあります。今回は講演1でCIOMS（国際医学団体協議会）のWorking Group XIによる報告書「医薬品の開発、規制、安全な使用への患者参画（2022年出版）」を全訳した演者による紹介と、講演2では国内で当事者として患者会活動をリードしてきた講師による倫理的な取り組みの実践としての患者参画についてお話しいただきます。

ご視聴
無料

主催	臨床研究リスク管理研究会
共催	三井住友海上火災保険株式会社 総合営業第四部第二課
配信日時	2023年5月18日（木）15時～17時
申込期間	2023年4月26日（水）～5月18日（木）13時

講演1

45分+
質疑応答15分

CIOMS報告書にみる患者・市民参画の視点と事例のご紹介

2022年に公開された、本CIOMS報告書は「医薬品の開発から日常の安全な使用に渡るプロセス全般における患者・市民参画」について、多数の具体的な事例やこれまでに行われてきた取り組み、今後の方向性のための原則・指針が250ページに渡って記載された、実用的なハンドブックである。本報告書の内容を概観し、患者・市民参画の向こうにある目的を踏まえて、今一度、患者・市民参画を考えたい。

藤原 紀子氏 東京大学医科学研究所附属病院 がん看護専門看護師・リサーチナース
臨床研究専門部門・看護部業務を経て、欧米豪にて臨床研究とPPiEを学ぶ。IACRN（臨床研究看護専門組織）・米国がん研究グループの委員および、国際婦人科がん学会Patient Advocate委員。

講演2

15分+
Discussion25分

患者会活動を更に充実する研修と社会貢献の取組み

患者・家族の「お任せ治療から、参画治療の実践」とし、「私たちのことを私たち抜きで決めないで（Nothing About us without us）」、患者家族の個別相談からグループセラピーの患者会活動、そして未来の患者を見越した臨床研究の計画段階からの参画へ目指す。

照喜名 通氏 認定NPO法人アンビシャス 副理事長
難病のクローン病の当事者、自分の疾患以外の難病の方への支援をとアンビシャスを設立、県と連携し沖縄県難病相談支援センターを運営。

座長

今村 恭子氏 （一社）医療開発基盤研究所 代表理事、医師、医学博士、理学博士

※本セミナーの講演内容については一部変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

お申込方法

下記URLまたは右記二次元バーコードよりお申込ください。
<https://ms-seminar.smktg.jp/public/seminar/view/20316>

お問合せ先

臨床研究リスク管理研究会 事務局
MS & AD インターリスク総研株式会社 田名邊・青木
TEL : 03-5296-8976 E-mail : interrisk_mwm@ms-ad-hd.com



部課コード	部課支社名	担当者名	内線番号/外線番号
-------	-------	------	-----------